

2009年12月4日

名古屋市会議長 吉田隆一 殿

名古屋市民オンブズマン

代表 倉橋 克実

名古屋市中区丸の内3-6-41 リブビル6階

TEL 052-953-8052 FAX 052-953-8050

黒塗り公用車 廃止の提言

私たちは税金の無駄使いをチェックするなかで、2001年以降、自治体が保有する黒塗りの公用車（以下「黒塗り車」と言います。）を維持していることが税金の無駄となっていることに着目し、削減や廃止を申し入れ、また、運行記録の調査をしてまいりました。このうち、名古屋市市長室が管理する黒塗り車についてはその運行状況がきわめて不効率であって、直ちに廃止すべきことを本年11月名古屋市長宛に申し入れをいたしました。その提言書を本書面に添付しましたので、ご覧ください。

黒塗り車を保有する、ということは、車両の整備費、ガソリン代、車検費用に加え、運転手の給与が必要です。添付の名古屋市長宛の提言書に記載したとおり、黒塗り車の運行をタクシーやハイヤーでまかなった場合の方が、はるかに行政コストを軽減できます。

そもそも黒塗り車とは、かつてステータスでした。しかしそれも運転が特殊技能であった時代のことで、運転が市民の常識となった現在、黒塗り車をステータスとする発想が時代遅れであることは、すでに民間で黒塗り車を多数所有している企業がないことから明らかです。

にもかかわらず、未だに運転者付き黒塗り車が存在すること自体、納税者の感覚と乖離しています。これは常に費用対効果を考えている民間企業と、原価に無関心な公的機関との意識の違いでありましょう。今更黒塗り車に乗って喜んでいる時代ではありません。

そして黒塗り車の廃止は名古屋市会の保有黒塗り車についても同様です。私たちが知る限り、議員にはタクシー代で換算した費用弁償のほか、名古屋市交通局の無料パスや専用の駐車場もあります。このうえ、黒塗り車を温存する合理性はどこにあるのでしょうか。11月議会では議員の費用弁償等の廃止について市長と活発なやりとりがなされるようですが、黒塗り車を保有したまま、費用弁償の維持等を主張されても、説得力には疑問があります。しかもこの不景気の中、名古屋市も深刻な歳入不足が懸念されます。にもかかわらず、費用弁償も黒塗り車も温存する、では市民の理解を得ることは困難です。議会の黒塗り車の廃止は市長部局との折衝や対立を生むことなく、議会の自己責任によって容易に多額の税金の節約が可能です。「隗より始めよ」という言葉を持ち出すまでもなく、まずは議長が率先して黒塗り車の廃止を実現されるよう、本申し入れをする次第です。

以上

2009年8月

NO.	車番	走行距離	タクシー換算	ハイヤー換算
市会議長	330つ7571	388	122,688	159,080
市会副議長	330す7582	432	136,601	177,120
	合計	820	259,289	336,200

2009年9月

NO.	車番	走行距離	タクシー換算	ハイヤー換算
市会議長	330つ7571	343	108,458	140,630
市会副議長	330す7582	417	131,858	170,970
	合計	760	240,316	311,600

※換算は名鉄タクシーによるタクシー253m/¥80 ハイヤー15km¥6150で計算